

特別の教科 道徳（道徳科）

小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編 以下『小解説』と略記する。

中学校学習指導要領解説特別の教科道徳編 以下『中解説』と略記する。

1 道徳科の目標

(1) 道徳科の目標（小解説 P. 15，中解説 P. 13）

第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目指す。

【小学校】

道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。



【中学校】

道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

(2) 道徳性を養うために行う道徳科における学習の具体的な目標

① 小学校における具体的な目標（小解説 P. 16）

- ア 道徳的諸価値について理解する
- イ 自己を見つめる
- ウ 物事を多面的・多角的に考える
- エ 自己の生き方についての考えを深める

② 中学校における具体的な目標（中解説 P. 14）

- ア 道徳的諸価値についての理解を基にする
- イ 自己を見つめる
- ウ 物事を広い視野から多面的・多角的に考える
- エ 人間としての生き方についての考えを深める

(3) 道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる（小解説 P. 19，中解説 P. 17）

道徳教育は道徳性（人間としてよりよく生きようとする人格的特性）を構成する諸様相である道徳的判断力、道徳的心情、道徳の実践意欲と態度を養うことを求めている。

これらの道徳性の諸様相には、特に序列や段階があるということではない。一人一人の児童生徒が、道徳的価値を自覚し、小学校においては自己の生き方についての考えを深め、中学校においては人間としての生き方について深く考え、日常生活や今後出会うであろう様々な場面及び状況において、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような内面的資質を意味している。

- ・道徳的判断力は、それぞれの場面において善悪を判断する能力である。つまり、人間として生きるために道徳的価値が大切なことを理解し、様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるかを判断する力である。的確な道徳的判断力をもつことによって、それぞれの場面において機に応じた道徳的行為が可能になる。
- ・道徳的心情は、道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情のことである。人間としてのよりよい生き方や善を志向する感情であるとも言える。それは、道徳的行為への動機として強く作用するものである。
- ・道徳の実践意欲と態度は、道徳的判断力や道徳的心情によって価値があるとされた行動をとろうとする傾向性を意味する。道徳の実践意欲は、道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし道徳的価値を実現しようとする意志の働きであり、道徳的態度は、それらに裏付けられ

た具体的な道徳的行為への身構えとすることができる。

2 指導計画作成上の配慮事項（小解説 P. 70，中解説 P. 69）

（1）年間指導計画の意義 ※_____は、中学校のみに記載

年間指導計画は、道徳科の指導が、道徳教育の全体計画に基づき、各教科等の年間指導計画との関連をもちながら、児童生徒の発達の段階に即して計画的、発展的に行われるように組織された全学年にわたる年間の指導計画である。

年間指導計画の重要な意義

- ・小学校においては6年間、中学校においては3年間を見通した計画的、発展的な指導を可能にする。
- ・個々の学級において道徳科の学習指導案を立案するよりどころとなる。
- ・学級相互、学年相互の教師間の研修などの手掛かりとなる。

（2）年間指導計画の内容

① 各学年の基本方針

② 各学年の年間にわたる指導の概要

- ・指導の時期 ・主題名 ・ねらい ・教材 ・主題構成の理由
- ・学習指導過程と指導の方法 ・他の教育活動等における道徳教育との関連 など

※校長や教頭などの参加や保護者や地域の人々の参加・協力の計画などを示すことも考えられる。

※指導の時期、主題名、ねらい及び教材を一覧にした配列表だけでは年間指導計画としては機能しにくいいため、一覧表を示す場合においても、学習指導過程等を含むものなど、各時間の指導の概要が分かるようなものを加えることが求められる。

③ 年間指導計画作成上の創意工夫と留意点

- ・主題の設定と配列を工夫する
- ・計画的、発展的な指導ができるように工夫する
- ・重点的な指導ができるように工夫する
- ・各教科等、体験活動等との関連的指導を工夫する
- ・複数時間の関連を図った指導を取り入れる
- ・特に必要な場合には他学年段階の内容を加える（小学校）
- ・時期、時数の変更やねらいの変更等、計画の弾力的な取扱いについて配慮する
- ・年間指導計画の評価と改善を計画的に行うようにする

3 道徳科の指導

（1）指導の基本方針 ※_____は、中学校のみに記載（小解説 P. 75，中解説 P. 74）

道徳教育においては、各教科、外国語活動（小学校）、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、年間指導計画に基づき、児童生徒や学級の実態に即し、道徳科の特質に基づく適切な指導を展開しなければならない。そのためには、以下のような指導の基本方針を、小学校においては確認する必要があり、中学校においては明確にして指導に当たる必要がある。

【小学校】

- ① 道徳科の特質を理解する
- ② 教師と児童、児童相互の信頼関係を基盤におく
- ③ 児童の自覚を促す指導方法を工夫する
- ④ 児童の発達や個に応じた指導を工夫する
- ⑤ 問題解決的な学習、体験的な活動など多様な指導方法の工夫をする
- ⑥ 道徳教育推進教師を中心とした指導体制を充実する

【中学校】

- ① 道徳科の特質を理解する
- ② 信頼関係や温かい人間関係を基盤におく
- ③ 生徒の内面的な自覚を促す指導方法を工夫する

- ④ 生徒の発達や個に応じた指導方法を工夫する
- ⑤ 問題解決的な学習，体験的な活動など多様な指導方法の工夫をする
- ⑥ 道徳教育推進教師を中心とした指導体制を充実する

4 指導の配慮事項 ※_____は，中学校のみに記載

(1) 道徳教育推進教師を中心とした指導体制（小解説 P. 83，中解説 P. 84）

道徳科は，主として児童を周到に，生徒をよく理解している学級担任が計画的に進めるものであるが，学校の道徳教育の目標の達成に向けて，学校や学年として一体的に進めるものでなくてはならない。そのために，指導に際して全教師が協力し合う指導体制を充実することが大切になる。

(2) 道徳科の特質を生かした計画的・発展的な指導（小解説 P. 85，中解説 P. 86）

各教科等で行う道徳教育は，全体計画によって計画的に行うものもあれば，児童生徒の日々の教育活動の中で見られる具体的な行動の指導を通して対処的に行うものもある。道徳科の指導は，学校の道徳教育の目標に向かって，教育活動全体を通じて行う道徳教育との関連を図りながら計画的・発展的に行うものである。

(3) 児童が主体的に道徳性を養うため，生徒が主体的に道徳性を育むための指導

（小解説 P. 87，中解説 P. 88）

道徳教育の本来の使命に鑑みれば，特定の価値観を押し付けたり，主体性をもたず言われるままに行動するように行動するように指導したりすることは，道徳教育が目指す方向の対極にあるものと言わなければならない。むしろ，多様な価値観の，時に対立がある場合を含めて，人間としてよりよく生きるために道徳的価値に向き合い，いかに生きるべきかを自ら考え続ける姿勢こそ道徳教育が求めるものと言える。

(4) 多様な考え方を生かすための言語活動（小解説 P. 89，中解説 P. 91）

学校の教育活動全体で言葉を生かした教育の充実が求められている。言語は，知的活動だけでなく，コミュニケーションや感性，情緒の基盤である。道徳科においても，その言葉を生かした教育についての充実が図られなければならない。

(5) 問題解決的な学習など多様な方法を取り入れた指導（小解説 P. 91，中解説 P. 94）

道徳科の特質を生かすことに効果があると判断した場合には，多様な方法を活用して授業を構想することが大切である。道徳科の特質を生かした授業を行う上で，各教科等と同様に問題解決的な学習や体験的な学習等を有効に活用することが重要である。その際，中学校では生徒の発達の段階や特性等を考慮した上で，人間としての生き方について多面的・多角的に考え，話し合いや討論することを通して，主体的かつ自発的な学習を展開できるように創意工夫することが求められる。

(6) 情報モラルと現代的な課題に関する指導（小解説 P. 94，中解説 P. 97）

社会の情報化が進展する中，児童生徒は，学年が上がるにつれて，次第に情報機器を日常的に用いる環境の中に入っており，学校や児童生徒の実態に応じた対応が学校教育の中で求められる。これらは，学校の教育活動全体で取り組むべきものであるが，道徳科においても同様に，情報モラルに関する指導を充実する必要がある。

また，現代社会を生きる上での課題を扱う場合には問題解決的な学習を行ったり，小学校では話し合いを，中学校では討論を深めたりするなどの指導方法を工夫し，課題を自分との関係で捉え，その解決に向けて考え続けようとする意欲や態度を育てることが大切である。

(7) 家庭や地域社会との連携による指導（小解説 P. 97，中解説 P. 100）

道徳科は全教育活動を通じて行う道徳教育の要であり，その授業を公開することは，学校における道徳教育への理解と協力を家庭や地域から得るためにも，極めて大切である。

また，道徳科は家庭や地域社会との連携を進める重要な機会となる。その実施や教材の開発，活用などに，保護者や地域の人々の参加や協力を得られるよう配慮していくことが考えられる。